

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ
川崎市外国人市民代表者会議
(第9期 第1年 第3回 第1日)
議事録

1 日時 2012(平成24)年10月14日(日)午後2時～5時

2 場所 川崎市国際交流センター

3 出席者

(1) 代表者 24人

吳 群、王 夕心、楊 奕、王 平、孔 敏淑、安 栄一、朴 昌浩、サルヴィオ
ローズマリー、中村 ジュデイス、シャルマ ガジエンダー、ケオパサアト
ラツアミチャン、ガン リョンイン、仲田 シリワン、グエン ゴク バオリン、法 邑
カレン ウイルフリダ、柳澤 アンナ、 coron ツイ カロル、園田 泉 ベアトリス、
生出 オリエッタ、シャヒン セルカン、シフケン ブランドン、チャート デビト、
セヌー ジョアキム、崔 想

(2) 事務局

横山 室長、佐藤 担当課長、松井 担当課長、大田課長補佐、向井 担当係長、小田切
担当係長、湯川 主任、北爪 職員、西口 専門調査員

4 傍聴者 6人

5 会議次第(公開)

- (1) 開会のあいさつ
- (2) 事務局説明
- (3) 議事
- (4) 事務連絡

6 議事等の経過

【全体会】

王平委員長「川崎市外国人市民代表者会議2012年度第3回第1日を開会する。傍聴者の
みなさんは傍聴者遵守事項を守っていただきたい。本日は許委員、エドモンド委員か
ら欠席の連絡があった。今日の日程と配付資料の確認をお願いする。」

(事務局向井係長が日程と配布資料について説明。)

王平委員長「次に前回会議のまとめの説明をお願いする。」

(事務局西口専門調査員が資料1に基づき前回会議のまとめを報告。)

王平委員長「では部会審議に移る。」

【社会生活部会】

チャート部会長「部会を開会する。審議に入る前に、年金制度についての説明を。」

事務局湯川主任「年金制度の変更について調べた。まず、現在25年間加入していなければ年金を受給できないが、それが10年間になる。また、今は週30時間以上の勤務をしていなければ厚生年金に入れないが、短時間労働者も入れるよう基準が変わり、今後、その詳細が決まる。」

チャート部会長「前回欠席の柳澤さんは、特に、親の呼び寄せについて意見があるか。」

柳澤委員「私の子どもと夫は日本人。親の介護が必要になったり、親と一緒に住みたい場合は、子どもと夫を置いて行くか、子どもと夫を自分の国に連れて行かなければいけない。親が日本に住めるような制度があれば、問題にならない。国に働きかけるか、川崎市独自でそういう制度を作るとよい。」

チャート部会長「川崎市独自というのは難しい。」

柳澤委員「いろんな人がこういう問題を抱えているので、この場で言うことは大切。」

チャート部会長「この場の重要な役割の1つは、私たちが問題を言えること。では、窓口対応と相談業務について、言いたいことがあるか。」

コロンツイ委員「このテーマでは既に多くの提案や意見が出ているが、それが提言にならなくても市の職員に届くかどうか疑問。」

事務局湯川主任「年に1回、市長にこの会議の審議内容を報告する。それは条例で決まっています。報告書も提出している。それを受けて、市は各部署に報告書を配布するので、読まれているはずだが、仕組み上、取組みを突き詰める提言ほどの拘束力はない。」

コロンツイ委員「こういう細かい問題は提言にしくなくてもよい気がするが、重要であれば提言を作らないとここだけの話で終わってしまい、もったいない気がする。」

吳委員「相談業務で、区役所などの職員が外国語で対応できれば一番理想的だが現実的ではない。そこで、ボランティアを取り入れてはどうか。職員ができなくても、ボランティアの外国人が間に入って通訳するとか。」

チャート部会長「国際交流センターは外国語で対応できる日がある。」

柳澤委員「私はロシア語に翻訳した。こういう窓口はここにありますか。」

コロンツイ委員「困っている人は、区役所に行く、もしくは、サンキューコールなどに電話すれば教えてくれるはず。」

事務局湯川主任「『外国人の皆さんへ』という、全部で7言語のものを市で作っている。最後のページに相談窓口一覧があり、区役所や県の相談窓口なども載っている。」

事務局向井係長「これは代表者会議で提案されて、委員の協力を得て翻訳され、配られたという経緯がある。」

サルヴィオ委員「緊急の場合は相談窓口がないと大変。相談ではなくても、インフォメーションみたいなどころがあれば、すごくいいと思う。」

チャート部会長「情報はあるということなので、情報伝達のテーマで取り組む。」

シャヒン委員「窓口で、そういう資料があるかどうかは、大事な話。その上で、その資料の内容について、職業の詳しい情報とかがあるか、話したい。」

事務局湯川主任「次回の資料として『外国人の皆さんへ』を用意する。」

王平委員長「今までは、外国人向けの窓口は一つだったが、我々も住民票になり、窓口も日本人と同じものになった。私も住民票を請求しに行ったが、日本語があまり堪能でない方は、この窓口で請求するのは難しいと思う。今までは外国人専用だったので、職員もいろんなことを知っていた。」

チャート部会長「確かに、最初にどこに行けばよいかは明らかだった。」
ガン委員「窓口対応や相談の前に、窓口の存在自体を、どうやって外国人に知ってもらおうかが一番大事ではないか。今までの外国人登録制度では必ず何年間かに1回、区役所を訪ねることがあった。今は、それもなくなって、伝えることが難しくなると思う。」

チャート部会長「情報伝達は、この後取り上げる大きなトピックである。」
呉委員「こういう話をすると必ず、資料はあって、そこに置いておけばいいというのが、区役所や市役所のやり方。外国人が見に行かない限り、そこに情報があることはわからない。もっと資料があるということアピールすることが重要。もう1つは、定期的に窓口を設けて相談をする、あるいは、区役所でネットワークをつくって、ボランティアが登録して、緊急の連絡があったときに、その人が電話なりで通訳するような仕組みをつくる。その場で対応できる仕組みが、ある程度あった方がいい。」

チャート部会長「ボランティア通訳制度はあると思う。」
柳澤委員「あと、病院に一緒に行ってくれる通訳のボランティアがいるらしい。どういうシステムかがわからないので、資料があればお願いしたい。」
事務局向井係長「医療通訳は、通訳してもらいたい人が申し込むのではなく、病院側が通訳が必要だと判断したときに対応する制度。神奈川県が中心になって川崎市や横浜市などの市町村が参加している。これは比較的大きな病院で行われている。それとは別に、MICというNPO団体が、独自に小さな病院でも協定を結んで、通訳を必要とする患者さんに対応するという活動をしている。全ての病院で通訳を派遣するのは難しいと聞いている。」

柳澤委員「学校に通訳が派遣されていて、区役所の一員になっていると思う。」
事務局湯川主任「日本語指導等協力者のことか。」
柳澤委員「協力者ではない。東京都にもある。横浜市では、外国語のできる人が学校で学習支援をしている。」

サルヴィオ委員「それはどこの団体か。」
柳澤委員「東京都の区役所でやっているのは、NPOだったと思うが、その団体が人を探して依頼する。横浜市は、市のホームページで募集して、1年間の契約。」

チャート部会長「事務局は、学校や病院などの現場で相談のための通訳について、川崎市の現状について調べてほしい。」
安委員「高齢者の老人介護に対する通訳等も、今後、非常に大きな問題だと思うので、一緒に調べてほしい。」

また、私も、初めて住民票を取ってみたが、どこまでが個人情報なのかわからなかった。子どもが、住民票を個人分として取ったが、それを見ると家族全員が載っていた。全部事項とか、自分の分だけという事項の違いを説明してほしい。」

事務局湯川主任「前回の資料4-3に住民票の請求書がある。その中に全員の写しと、一部の写しとあるので、そこで全員に申し込むと世帯全員、一部の場合は、その中の誰かと名前を書く欄があるので、そこで名前を書いた人だけの住民票になる。」

安委員「そのように手続きしたようだが、子どもを見ると全部載っていた。」
事務局湯川主任「全部事項というのは、日本人の場合、本籍地など住民票の中でも載せる項目と、載せない項目を選べる。世帯主として、父親の名前が出る可能性がある。」

チャート部会長「確かに、外国人が住民票を申請するとき、国籍などが表示されない住民票の写しももらえる。どこにチェックするかややこしいが、一人分はもらえるはず。相談などの窓口対応について、次回もう少し審議したい。では、町内会などの地域活動への参加について、事務局から説明をお願いします。」

(事務局湯川主任から、前回資料4-4に基づき説明)

チャート部会長「町内会・自治会について意見を聞きたい。」

柳澤委員「私は、困ったことはなかった。マンションに入った時点で、全員町内会に加入し、管理費に町内会費が含まれている。盆踊りをやったり、回覧板が来たりする。隣の小学校や中学校でどんな行事があるのか全部把握できて、すごくよかった。問題としては、毎年役員が変わって、自分の番も来る。町内会費は払っているが、役員はボランティアとしてやらないといけない。私も1年間やって、次の年に日本人に役員をお願いしたら「なぜ、私がやらなくてはいけないの」と言う。外国人に限らず、制度が分からない人がいるので、そうした人も出てくる。」

チャート部会長「委員は地元の町内会に加入しているか。」

孔委員「私は去年脱退した。今は昔と違って、隣の家の人と余りしゃべらず、町内会にも積極的に参加したりしない。回覧板は読むかどうかは別で、「ちゃんと回しましたよ。」で終わり。商売をしている人は、積極的に参加しているらしい。もう少し町内会に参加したいという気持ちが出るようなものにした方がいいと思う。」

呉委員「私も、川崎市に引っ越して、町内会に初めて入った。どんなものかわからなかったが、日本に住む以上、日本社会に入り込まないといけないと思い申し込んだ。しかし、前から地域に住んでいる人でも入っていない。孔さんの言うとおりの、私たちが毎月300円を払って得られることは回覧板が回ってくるだけ。例えば、お祭りがあって、町内会に入っていない人は行けないかという、行ける。子どもは景品ももらえる。結局、入っている人たちは300円を払うだけ。あとは、私は婦人部会の幹事をやって、お祭りの手伝いをしたり、募金の集金をした。でも、集金をするときには回るのは町内会に入っている人たち。こうした制度はおかしいと感じている。最近、面倒だから入らない人の方が多いようで、これは、日本の地域社会の問題でもある。」

柳澤委員「入らないという選択肢があるということさえ知らなかった。」

事務局湯川主任「マンションの管理組合は、入らなくてはいけない。」

チャート部会長「うちのマンションは管理組合も町内会・自治会もある。管理組合と自治会の回覧板が別々にある。」

安委員「町内会は、まちの防犯・防災、子どもの安全を守ることから始まっている。だから、まちづくりに自分から参加しないと誰も助けてくれない、情報も入ってこないというところから始まっている。私がいるところも、10軒ぐらいが1つの組になって、毎年順番に、当番が回ってくる。また、町内会が子ども会を運営している。野球部やバレーボールなど、子どもがいる方は町内会に入らないと、子ども会の情報を得られない。あと、まちの防災・防犯。冬になると「火の用心」と言って、役員が順番で夜11時ごろ、たしか11月から1月まで行っている。みんなでまちをつかっていくというのが基本なので、それを忘れて、隣が入らないからというのではだめだと思う。」

柳澤委員「今までは、きれいで安全な日本だったが、最近、だんだん悪くなって、学校か

ら、「ナイフを持っている人が見つかったので迎えに来てください。」などの連絡がある。これからも安全に住みたいなら、まちづくりに参加しない限りできない。また、子どもにバレーボールとか野球を勧めて、時間も体も大事に育てていく団体があるからこそ、ここは安全だと思ふ。地域活動はすごくいい。」

チャート部会長「町内会の活動は大変いいことだが、最近行っているかどうかが問題。」

柳澤委員「実際に行っているが、加入している人と加入していない人がいるので、どうやって、メリットを重視して、みんなが入るような町内会が作れるかが問題。ただ、この課題は私たちだけではなくて、日本人の課題でもあると思う。」

王平委員長「町内会に加入するには、マンションに入るときに、連絡があるのか。」

柳澤委員「マンションの管理組合は、町内会の加入を勧めている。マンションに入った時点で、管理費と町内会費が請求される。」

王平委員長「管理組合には入っているが、自分が町内会に入っているかどうかわからない。」

事務局湯川主任「町内会・自治会に加入していない管理組合もあると思う。」

coron ツイ委員「私のマンションは加入していない。」

ガン委員「私が住んでいるマンションは、理事長にしか回覧板が回ってなくて、あとは、理事長を通して管理組合とか何らかの方法で住民に知らせている。」

チャート部会長「前に住んでいたマンションがそうだった。」

柳澤委員「川崎市の新聞とか、区の新聞が配られているのは、町内会の1つの仕事。区役所から役員になっている人に、新聞が全部来て、みんなに配る。」

サルヴィオ委員「私は地域で活動しているので、重要な情報が入って来る。わからない外国人には配っている。外国人は、本当は最初から最後までわからない。」

シャヒン委員「私の知っている限り、私は町内会には入っていない。」

チャート部会長「問題は、入っているかどうかわからない人が意外に多いこと。」

王平委員長「自治会室というのが、ふだんドアが閉まっていて誰もいない。加入に来てもしんどいと思う。祭りのときだけ開けられている。」

柳澤委員「ちなみに、そういうところは、安く借りることができる。例えば、地域の子どもたちに自分の母語を教えたいとしたら、町内会館を借りられる。」

チャート部会長「入っているかどうかわからないし、何をやっているかよくわからない人が多い。でも、一方、活動自体はいいことだという状況。そして、脱会する人もいて、崩れそうな制度になっているのではないかという危機感がある。」

孔委員「町内会や自治会は、入ってもいいし、入らなくてもいい、というところですがごく曖昧。入っていない人を見て、入らなくてもいいという気持ちになるのではないか。」

王平委員長「中国には、日本に似た自治会があるが、ほかの国にもあるか。」

チャート部会長「ない。」

孔委員「ある。」

柳澤委員「ある。イギリスは、例えばマンションの屋根は誰が修理するのか。」

coron ツイ委員「マンションの管理組合が行う。」

柳澤委員「管理組合は地域活動をしていないのか。」

coron ツイ委員「回覧板とか地域活動、子どもの活動は、一切やっていない。」

委員「防犯上は、自治会とか町内会は、大きな役割を果たしている。お互い、隣に誰が

住んでいても無関心な社会になってくると、例えば、泥棒が入ったところを見ても、誰が住んでいるのか、その人が住民か泥棒かわからない。だから、積極的にこういう関わりを持つことで、安全・安心な社会をつくるというのが重要。」

柳澤委員「マンションで、挨拶していても、向こうが交わしてくれなかったが、3年間かけて隣の子どもに毎朝挨拶した。3年後には、私にも挨拶を交わしてくれた。自信を持って続けましょう。」

チャート部会長「提案などがあれば、町内会に加入していない人は、祭りの入口で追い出されるということはあるのか。」

柳澤委員「実際にはそういう制度がある。役員になると祭りの300円券を渡されるとか。でも、役員にならない限りそういう制度さえ知らない。でも、役員にならないとしたら情報をもらうだけだから、商品券をもらうというのはおかしい。」

チャート部会長「確かに、うちの祭りでは、町内会・自治会に入っていれば、いろんな参加券がもらえる。提案はあるか。」

柳澤委員「日本人もちゃんと考えるべき。要は、人が入れば入るほど活動は広がる。」

チャート部会長「日本人に、この会議から、「町内会に参加してください。」と呼びかけを。私たちがもすぐ心配。」

柳澤委員「うちの町内会の野球チームは、地震の後に町内会でお金を集めて送った。」

チャート部会長「うちの自治会は毎年、祭りやいろんなイベントを開催するが、うちの団地は昭和50年に建ったので、老人向けのイベントが多くある。」

柳澤委員「ちゃんとニーズに合わせている。」

チャート部会長「そのとおり。日本語の回覧板などに問題を感じた人はいるか。」

シャヒン委員「回覧板は全部日本語で書いてあり、読めない漢字が多いので、いつも誰かに聞かなくてはいけない。でもそれについて何かできるかわからない。」

柳澤委員「よく読んでみると、あるお母さんが病気の子どもを学校に行かせるのに困っていて、週1回でも学校へ送るボランティアを探しているという、とても大事な内容があった。それは、誰かがボランティアを申し出た。それだけで、この1年間町内会をやった意味がある。新聞には、例えば4月から新学期が始まるが、外国人の子どもが周りにいたら、お母さんに、易しい日本語で声をかけて、知らせてくださいというのが書いてあった。自分で読めなくても、隣の人が気づいて知らせてくれるかもしれない。」

チャート部会長「柳澤さんの自治会では、本当に外国人がいれば知らせてくださいと書いてあるのか。」

柳澤委員「実際に私は見た。」

呉委員「区役所など大勢の外国人を相手にするところでは、多言語の対応は必要だが、町内会にまでそれを要求するのは現実的に難しいと思う。」

チャート部会長「日本語が全くできない外国人は少ないと思うので、町内会の隣同士であれば、時間をかけて説明することができる。「外国人に知らせてください。」と書くのは、情報の1つのルートとして重要だと思う。」

サルヴィオ委員「日本に20年間住んでいても、まだ日本語がわからない人もいます。だから、せめて少しわかりやすい情報を伝えてほしい。」

孔委員「話すのは、ある程度できるかもしれないが、読めない人は本当に多い。」

チャート部会長「だからこそ、「教えてください」というのは、いいこと。ほかのコメント

や提案があるか。では、よければ、まちづくり。資料の説明を。」

(事務局湯川主任から資料3-2に基づき説明)

チャート部会長「まず、シャルマ委員からこのテーマについて説明してもらいたい。」

シャルマ副委員長「我々は代表者として、いろんな課題の話をしているが、どういう方法で、解決できるかと考えたときに、企業や市と一緒に取組む方法がある。そうすると資本関係、投資が発生する。政府が企業をサポートするために税金を出すのは世界的な傾向。企業が、川崎に投資したい、新しい研究センターをつくりたいというときには、市がサポートする。そのサポートのときに、非課税分の一部を学校や病院に使ってはどうか。インドの南の政府は実際に行っている。」

その後のステップとして、そこでの社会活動や道や公園、病院、学校へ支援が集まる。その結果、日本人市民や外国人市民の子どもたちのサポートと仕事を探している先生たちのサポートになる。」

チャート部会長「特に、外資系の会社だと海外から人がきて、川崎市に貢献するという考え。外国人市民代表者会議の範囲に入ると思う。」

シャルマ副委員長「私は、インドとかドバイとか、いろんな例を見た。そこに投資すれば、減税があり、環境に貢献することが1つの条件として入っている。海外の企業が投資するのであれば、海外企業の社員と家族も来るし、いま住んでいる外国人や日本人市民に対してどういう形でサポートできるかということを考えたい。」

柳澤委員「今は川崎にはないのか。」

事務局湯川主任「今ある制度は、資料のとおり。」

柳澤委員「例えば障害のある人は、一定数公務員にする制度があるのではないか。一般企業もそういうシステムがあるはず。」

事務局湯川主任「調べて報告する。」

呉委員「川崎市の企業誘致は、外資だけではなく、全般の話か。」

事務局湯川主任「特に外資に限ったことではないが、特に(1)は英語のパンフレットもあるぐらいなので、外資も対象にしている。」

チャート部会長「この分野の担当者を呼ぶこともできる。」

呉委員「外資を積極的に誘致するのは、どちらかという途上国。そして、国の方針になると思う。税金も、国の方針を出さない限り難しいのでは。川崎の企業に対して、市の権限で安くできる税金はあるか。」

事務局向井係長「確認する。例えば、川崎区の殿町など羽田に面している地域では特区という形で、国の制度の中で重点的に一定の分野の企業を集めることが認められている。減税できるかどうかは、また別の問題。市全体の運営の問題として考えることになると思う。」

コロンツイ委員「途上国と日本では状況が違うので、インフラをつくるとか、そういったことをもともと推進していないような気もする。川崎市は国の中でも税金が安い方で、場所もよい。川崎は企業も住民の税も低い。」

チャート部会長「次回は、相談窓口で、『外国人の皆さんへ』と、学校、病院などでの通訳や相談についての情報を話し合う。そして川崎の国際化や投資を促進する方法について審議したい。次回までに考えてほしい。では、部会を閉会する。」

【福祉教育部会】

園田部会長「福祉教育部会を始める。資料の確認と前回のまとめを事務局にお願いする。」

(事務局西口専門調査員が配布資料の確認および、資料1の前回会議のまとめを報告。)

園田部会長「前回意見を言えなかった人に家庭教育で困っていることを言っていたく。」

仲田委員「子どもが大きくなるにつれて、困ることも変わる。小さいときは親の言うことを聞くが、だんだん外の世界の知識が入り、考え方も少しずつ変わる。今、子どもは5年生だが、私が何か言うと、お母さんは日本人ではないからわからないと言われる。社会も変わって、大人と子どもの考え方にも違いがある。」

ケオパサート委員「先日オープン会議のPRのために、識字学級を訪問したが、そこに通っている外国人の男性から、娘に算数を教えたいが教えられなくて対応に困っているという話を聞いた。」

王夕心委員「私は子育ての経験はないが、弟が日本のシステムがわからなくて、自分の国の感覚のままで社会に出てやっていけるかという悩みがあった。」

朴委員「母親は在日の1世で、日本語は話せるが、学校からのプリントが読めなくて困っていた。私の子どもは日本と韓国の二重国籍。国籍を選ぶときに、親として何を言えばよいか悩んでいる。」

園田部会長「これから解決方法を考えていきたい。どういうことがあればよいか、どのように提言を書くか、について一人ずつ言ってほしい。」

生出委員「家庭は自分の居場所。外から問題を持ってくると、家庭の中も落ち着かない。私は家で落ちつくために、インターネットで知っているスペイン語の音楽を出して、歌っている。家庭がプレッシャーをかける場にならないようにしている。」

園田部会長「保護者のサポートも必要ではないか。外国人としての限界も来ると思う。解決方法として保護者のサポートが市からあれば、もっと楽になるのではないか。」

生出委員「夫は教育に関して厳しく、家庭の中のルールも多いが、私はリラックスできる場をつくることを考えている。これは家庭教育として1つの解決方法にならないか。」

園田部会長「家族の問題も含め皆それぞれ問題を抱えているが、皆の代表として話をしないと会議の意味がない。提言としてどのように書けばよいかを考えてほしい。」

王夕心委員「学校だけでなく、地域や外国人の家庭を集めて、交流の場をつくり、経験やアドバイスをしてもらったらどうか。」

グエン委員「私たちは日本を選んで住んでいるので日本語と日本の文化がベースであることを忘れてほしくない。そこに自分の国の文化を重ねて、バランスをとっていく。例えば将来子どもが大きくなったら、出身の国のことや過去の戦争のことを理解してほしいが、それは家庭内でやること。行政としての解決方法は交流の場を作って、週1回でも情報交換できるようにすればよい。」

日本は制度が多過ぎてわかりにくい。私は制度についてもっと調べやすい環境をつくりたい。制度を知らないのは自己責任。1つの解決法はみんなに知らせるようにすることだが、日本語ができないから読めないというだけでなく、自分自身の努力も必要。」

ケオパサート委員「制度はたくさんあると思うので、それをわかりやすくする方法がよい。」

両親と子どもと一緒に過ごす時間がないというのは言いわけ。ちょっとずつ家族の時間をつくって、何かあったらその時間に皆で話し合っ理解することが大事。あと、保護者の相談や、子どもの問題を相談できるとよい。」

シフケン委員「日本の学校は競争意識が高い。子どもや親が完璧に日本語ができないと、ついていけず、すごくストレスになる。学校から来るたくさんの資料が読めないのは大変な問題。解決方法として、日本語が完璧にはできない親のための悩みを聞き、意見交換できるネットワーク、オンラインでもよいが、そうしたものがあるとよい。」

私立はかなり違うかもしれないが、一般的な学校のカリキュラムや行事日程は大体同じだと思うので、インターネット等を使って、今週は学校で何がある、という多言語のお知らせをしてはどうか。オープン会議も6言語に印刷されている。親や子どもの孤独を少しでも軽くできたらストレスも軽くなるのではないか。」

セヌー委員「家庭教育は、基本的には家族の責任。わからないことを相談できる場所をつくるのが大事。」

崔委員「外国人というと、孤独、ネットワークがないために悩みなどを話し合う場がない。セミナーを開くとか、話し合う場をつくり、コミュニケーションやネットワークが増えていくと思う。」

仲田委員「2パターンの解決方法がある。1つは教育への支援。教科書の中に世界の国の文化や社会を紹介する内容があるとよい。自分の子どもも、学校であなたのお母さんは変ではない。あなたのお母さんには別の国がある、ということをお母さんに教えれば、子どもたちの考え方も少しずつ変わる。もう1つは地域サポート。私は13年識字教室に参加しているが、参加者は友達、情報、コミュニケーションが欲しいので参加している。最近日本語のクラスで特別なミーティングを開くことを相談している。月一回、例えば幼稚園の入園準備など、特定のテーマで開いて情報を提供する。日本語クラスの先生はやりたがっているが、区が実現してくれるかどうか分からない。」

中村委員「うちは夫と中学1年生の子どもがよく親子喧嘩をしている。子どもが学校でトラブルがあり、先生から家庭のストレスが原因だと言われた。子どもを守るのとはとても大切だと思う。それと、子どもの学校が長期休みの時に、親も合わせて1週間くらい休みをとることはできないか。一緒に過ごせれば子どもの悩みも聞くことができる。日本はお親が仕事で忙しいので、何とかできないかと考えている。」

朴委員「最近共働きの家庭も多く、子どもも学習塾などで帰りが遅いが、休みの日を使って、地域のレクリエーションに参加するのも1つの方法。もう1つは学校のプリントなどは、訳せるものは訳すとか、ルビをふるという配慮は必要。」

楊委員「我々は日本で生活し、子どもは日本の学校に通っている。自分達の周りの日本の文化と習慣は尊重し、その中で自ら学びながら、適応していくことが必要。その次に、自分の国の文化や習慣、歴史、言葉の問題や、夫婦で名字が違うといった理解しにくいところも、我々が自分からアピールしていく。例えば近所のつき合いがない場合は、自分からできるだけ声をかけて、交流して仲良くしていく、そういう方法で日本の社会の中で生きていくことはできると思う。」

法邑委員「情報の話がでていますが、例えばインターネットからの情報もいいが、ほとんど誰でも自宅にテレビがある。最近携帯でも映る。そこで家庭のことなどをテーマに1つの番組を作ってはどうか。例えば外国に住んでいる日本人の現地での子育て方法や、他の国の子育てを紹介する番組があれば、日本人にも外国人にも勉強になる。」

おそらく文化の違いで日本人ではないと言われるが、私たちが日本の文化を覚えるだけでなく、日本人にも外国の文化を知ってほしい。テレビを通じて、その国の話を見たよ、という子ども同士の話も生まれるのではないかな。そこから少しずつ変わると思う。」

園田部会長「非常に魅力的だが、どのように番組を作れるのか。」

グエン委員「実現できたら一番効果的だと思う。川崎市内の番組を考えているのか。NHKや、ほかのテレビでやっているが。」

法邑委員「全国でまだ作られていないなら、川崎で始め、その後広げても構わない。」

グエン委員「予算やテレビ局など複雑だと思う。実現できそうな見込みはあるか。」

園田部会長「一番近いのは、テレビ神奈川ではないか。事務局で何かアイデアはあるか。」

事務局西口専門調査員「川崎市はラジオで6言語で情報を放送しているのです、その枠で子育ての問題の情報提供はできるかもしれない。」

事務局佐藤課長「テレビ神奈川の番組をつくるのに関わるのは非常に難しい。」

シフケン委員「インターネット上で流す番組であれば予算が少なくてもできる。」

グエン委員「やはりテレビが一番効果的。ただ、問題は実現できるかどうか。テレビ局や番組制作まで全部プロがつくったら、その中で日本人や外国人の日本ホームステイ体験談、など面白いストーリーも入れれば、みんな見ると思う。見たら勉強になるし、すごい効果があると思うが、無理だとすると、どうするのか。」

園田部会長「私たちが自分の国の教育を紹介するセミナーを開き、日程や場所を神奈川テレビやFMで広報してもらうのはどうか。それも1歩。誰かにやってもらうのではなく、私たちが何ができるかを考えれば実現できるのではないかな。それが有名になれば番組になるかもしれない。少しずつでも自分たちの力でどこまでできるかが重要。」

法邑委員「番組をつくるのは、確かに大変だが、皆が帰国した時にビデオを撮ったりすれば可能ではないか。この世界に難しいことはない。ただ、やる気があるか、やる意味があるかを考えてほしい。人が変わるか、考え方が変わるか、そこから考えないと。今日は無理でも明日はわからない。今できなくても、次の人は誰か続けて考えてくれるかもしれない。」

仲田委員「私は7年前にボランティアでタイ料理をつくったときに神奈川のケーブルテレビが取材に来たが、製作費ではなく、スポンサー費用が一番の問題。」

シフケン委員「インターネットの番組を作って、WEBサイトに載せたらスポンサーは必要ない。製作費だけ考えればよい。」

セヌ一委員「番組は誰がやるのか。プロでなければ放送する意味はあるのか。ちゃんとしたテレビ番組で、海外へ行って、現地の現状を調べるのは時間もかかるし、人件費も設備もかかる。確かに難しいが、今すぐやるのではなく、どういう方法でやるのか考えたほうが良いと思う。」

シャルマ委員「テレビの話はすばらしいが、コストがネック。帰国したときに、自分でビデオを作って、テレビ番組に提案したら、興味を持ってもらえるかもしれない。文化、言語、環境の違いから我々は皆個人的な問題を持っているが、日本人も例えば大阪と東京で文化の違いはある。個人の持っている問題からどのように一般的な問題として考えられるか、ということが重要。家庭教育で考える解決方法を整理し

て、4つのキーワードでまとめてみた。まずネットワークを作ること。イベントを増やすのも一つだが、そのイベントの情報をどのように提供するかが、次のステップ。例えば我々が代表として広報する、あるいは区役所の外国人の窓口を使って情報提供することもできる。次に、情報。テレビ番組やインターネット、DVDを作るなど、いろいろな方法がある。そういうものを、英語や一番わかる言語でインターネットに載せることもできる。要は情報に触れる機会を増やす必要がある。次に、川崎市の外国人でボランティアしたい人を調べて、学校で1年に1回自分の国を紹介して子どもたちと交流する機会を持つ。最後はコミュニケーション。方法としては、我々26人が民間大使になればよい。皆自分の国や友達など自分のネットワークを持っている。そのネットワークを使って、それが普及していけばよい。26人がそれぞれ100人に働きかければ、2,600人。我々はすごい力を持っているので、できると思う。

この中で最もできそうなのは1年に1回学校に行き、話をすること。その人たちは子どもたちに触れ合うという体験を与えることができる。子どもたちもわかってくるのではないか。これを進めて、最終的にはキッズ国際フェスティバルをやってはどうかと思った。いろいろな子どもたちが参加して、1日のフェスティバルをやる。そのときに自分の国の番組を出してもいいし、歌でもいいし、勉強の面でも、PRの面でも、家庭の教育でもいいと思うが、そういうフェスティバルをやってはどうか。」

仲田委員「外国人が学校に話に行くというのは、私もやったことがある。私はいつも1年に1回、日本語教室で小学校に行き、いろいろな国の文化や言葉、料理の紹介などをやった。でも、最近授業の時間が足りないらしく、2年前にやめてしまった。」

園田部会長「提案だが、次回の会議で教育委員会の方を招いて、この問題の解決方法、例えば学校の資料にルビをふる努力、または小学校や中学校の入学説明会が外国人向けにはないこと、などについて聞いてはどうか。」

例えば国際的な授業で外国人の先生が小学校にいるが、その学校に通っている外国人の子どもに自分の国について発表する場をつくってほしい。例えばあるクラスにフィリピンの男の子が入ったとする。やはり日本語の壁もあり、子どもたちのいじめのターゲットになりつつ、危険もあるかもしれない。そこで、その子に朝の会などの時間にクラスの皆の前で自分の国の紹介をしてもらう。例えば何か物を持っていったりして、その子どもを立ててあげる。それはその子の自信につながっていくと思う。」

グエン委員「今の提案や、説明会、学校からの配付資料のことなどはもともとの家庭教育というテーマから外れている気がする。国際理解教育や、日本に住んでいる外国人向けの教育の支援というテーマになるのではないか。」

園田部会長「教育委員会を呼ぶのは、やはり外国籍の家庭をサポートする面で必要だと思う。そのサポートの中で、こうした国際的な授業ができるかどうか考えてもらいたいという形でまとめられるのではないか。」

グエン委員「過去の代表者会議では家庭教育というテーマは出なかった。この会議では、教育の問題、特に学校の問題で悩んでいることについては、似ている問題がこれまでかなり出てきていたので、今回このテーマが一位に選ばれたが、正直に言うと、

このテーマが何を意味しているのかわからない。」

生出委員「私が考える家庭教育は、各委員が子どもが大きくなるとともに、学校でいろいろな問題が出たり、勉強が変わったり、思春期に入ったりして、家庭が落ちつかない時期がある。それは親も落ちつかないと感じる時期。それで親が大変だと感じたとき、家庭、あるいは家庭教育をどのようにしていけばいいのか、を考えるのがこのテーマだと思う。つまり、外で起きた問題が家庭に持ち込まれるので、家庭の問題にもなる。そのとき、家庭でその問題をどのように解決していけばいいか、それが家庭教育だと思う。例えば家族皆で話し合ったり、親子一緒に何かをやるとか、お互いにサポートできるような取り組みがあると思う。」

日本では親が気にし過ぎではないかと思う。私は中学校、高校のことを問題と思わず、そういう時期だと考えればよいと思う。しかし、その時期をどのように、皆で乗り越えればいいのか、サポートが必要なら、家庭にどのようなサポートがあれば乗り越えられるか、という方法を考えることだと思う。」

園田部会長「乗り越えるためには、情報が足りないと思う。私からの提案としては教育委員会を次回呼んで、質問に答えてもらい、それを聞いたところで、このテーマをまとめたい。」

あとは、国際結婚の問題や子育ての問題もある。日本でなじめない子どもやパートナーに対して、セミナーを開いてはどうかということも考えている。教育ではなく、人間関係やセラピーの方法についてのセミナー。セラピーというのは自分を知る場、どういうふうに分と向き合って、日本で生きていくか、ということのセミナーのプロの先生を私は知っている。もし皆さんが興味があれば、そういうセミナーも開いてもいいと思う。教育だけではなくて、自分自身をもう少し知るということでセミナーを皆さんに提案したいがいかがか。」

朴委員「画期的な方法だと思う。一つ提案だが、今回の議事録を教育委員会の担当者に一度見てもらい、教育委員会ではどういう考えがあるのかを聞きたい。質問も事前に見てもらえると、時間の短縮もできると思う。」

園田部会長「次回教育委員会の人に来てもらえるのであれば、質問や提案を投げてみることで、教育委員会を通して学校が動いてくれると思う。きちんと外国人の気持ちとして、説明すれば、わかっているだけだと思う。川崎市の全ての学校でできなくても、1歩にはなると思う。」

朴委員「今日の発言記録は事前に教育委員会に見せるのか。」

事務局西口専門調査員「何を聞きたいかは、事前に教育委員会に伝えておきたい。その上で今回の記録と、前回からの家庭教育の中で出た意見を事務局から個別に担当者に説明する。皆さんの意見に対する教育委員会のコメントが欲しいのか、具体的に質問があって呼びたいのかは、分けて考えていただいたほうが分かりやすい。」

園田部会長「担当者がこの会議のための準備にどのくらい必要か。」

事務局西口専門調査員「質問であれば、会議の2週間前には必要。」

園田部会長「今日から10日以内に教育委員会への質問を考えて、事務局にメールで送るのはどうか。」(異議なし)「では、皆さんに教育委員会に聞きたいこと、解決できるかどうかという質問を送ってもらう。質問は多くても3つまでとする。」

ケオパサート委員「質問は、家庭教育の質問を中心にするのか。」

園田部会長「システムを大きく変える提案は難しいと思うが、例えば小学校の入学前の説明会を、外国人向けの説明会を易しい日本語、または通訳つきで、ルビをふった資料で開いてほしいというのも1つの提案。今ある制度の中で、外国人が何に困っているか、をわかりやすい方法で説明してもらおうなど。セミナーについても、どのようなセミナーがよいか、皆さんに考えていただきたい。」

グエン委員「この部会では、家庭教育、母語教育、異文化交流を優先的に話し合うことになっているが、今の内容は、優先テーマにならなかった保護者支援の内容になっている。家庭教育はやめて、保護者支援の審議をしたほうがよいのではないか。」

園田部会長「内容は若干重なると思う。家庭教育というのは非常に難しいテーマ。私は家庭サポートという意味でとらえている。そうすると、全体的な家庭のサポートができるのではないかと思う。」

事務局西口専門調査員「教育委員会の人を呼ぶなら、部会で決めてもらい、全体会でもう一度提案して、認められれば呼ぶことができる。」

園田部会長「では、次回教育委員会を呼ぶことに賛成の人は手を挙げて。」(全員賛成)
「では全体会議で提案する。」

最後に、全体会議で部会のまとめの報告を私がしているが、今日から名簿順に順番に部会のメンバーがやっていただきたい。今日の報告は楊さんをお願いしたい。このような方法でやってもよいか。」(異議なし)

事務局西口専門調査員「セミナーについて、具体的に決めるところはあるか。」

園田部会長「セミナーについては、皆さんが参加できる日程で考えたいがいかか。その先生は、外国籍だけでなく、不登校児童生徒の保護者の支援をしている方。セミナーも開いている先生で、国際結婚している方を中心に、そこでどういった問題を抱えていて、どういうふうに解決ができるかというサポートについての話をしてくださる。そういうセミナーを開いてもいいと思う方。挙手していただきたい。(挙手)では、進めてよいか。」(異議なし)

崔委員「そのセミナーはここだけではなく、外国人保護者が集まるようなほかの場所で生かすべき。まずはここで検討してどういう形で進めるかも考えたい。」

園田部会長「では、その他の子育て施設に関する資料について事務局に説明してもらおう。」

(事務局西口専門調査員が資料2-2から資料2-5までを説明。)

園田部会長「何か質問はあるか。」

王平委員長「部会のレイアウトを傍聴席に近い方に設置してほしい。」

事務局佐藤課長「次回からそのようにしたい。」

園田部会長「それでは部会を閉会する。」

【全体会】

王平委員長「全体会を始める。部会報告をお願いします。」

【社会生活部会】

チャート部会長「今日3つのトピックについて審議した。まず、前回に続き、窓口対応・相談について。区役所で多言語対応があるとよいが、どの窓口がよいかという点が難しい。外国人登録窓口がなくなり、わからないことをどこで聞いたらいいかわからなくなった。外国人に接する経験が豊かな職員がどこにいるかわかりにくい。」

区役所でいろいろな多言語資料が置いてあり、相談できる施設もあるが、その情報をどうやって手に入れるかが問題となった。緊急の場合の通訳支援があるかどうかについても質問があった。次回、市の資料に入っている相談窓口、相談施設について見る。緊急の場合に病院、学校などで通訳をつける制度についてさらに審議する予定。

地域活動への参加については、町内会、自治会を中心に話した。町内会・自治会の活動は防災、安全安心、子ども会、ごみ、きれいな街、お祭り、そして情報の伝達も町内会の仕事で、地域に住んでいる人が自主的に運営している。問題は、自主的な活動なので、役員などを日本人も含めてやりたくない人がいる。役員はボランティア。情報を配るのは重要な仕事だが、祭りなどはある程度加入しなくても参加できるので加入しない人が増えているようだ。自分が町内会に参加しているかどうかさえわからない人もいる。制度には曖昧なところがあり、そしてマンションの管理組合と町内会は別々の組織だが、それも曖昧。

しかし、子ども会、祭り、防犯・防災など活動はよいので、皆が参加するとよいが、参加しない人が多い。私に負担が来るのはどうしてか、という不満が強くなるので、もう少し日本人にも参加してほしいという意見があった。町内会レベルで多言語の資料を要求するのは難しいが、町内会を通して、日本語はある程度話せても読めない外国人に、近所の人を通じて情報が伝わるといった例もあった。町内会の存在や役割は大変良いことで、外国人だけではなくて住民全員へ貢献する活動だが、参加者が増えるかどうかは、まず、私たちの積極的な参加次第ではないかという話も出た。

最後にまちづくりのテーマに入った。まちづくりは企業を誘致して、企業と市で設備を整えるために取り組む施策。川崎市で今ある制度について説明してもらった。もし、ある企業が川崎市に投資し、減税された分地域社会へ貢献できる制度があればいいという意見。次回は窓口の相談業務とまちづくりについて審議する予定。」

王平委員長「今の報告について、意見・質問はあるか。」

朴委員「役員が1年で変わるというのは、町内会の役員か、マンションの管理組合の役員のことか。」

チャート部会長「審議の中ではしっかり分けていなかった。町内会とマンションの管理組合の区別がっていないケースがあることが明らかになった。」

朴委員「私も町内会の役員をやっているが、任期は大体2年が多い。マンションの管理組合は毎年交代だが、最近、高齢化が進んでいて、高齢で一人暮らしの方が役員をやるのが大変なので、任期を2年にする、あるいは毎年役員半数だけ改選するところも増えているようだ。募金や手伝いが面倒ということもあるが、募金は民生委員が中心になるので、民生委員から町内会に、募金で今何人手伝ってくれる人が欲しい、というお願いが来るようになってきている。加入の方法については、町内会には必ず事務局か総務部があるので、そこで聞くのが一番よい。または、町内会長に聞けば、加入の仕方を教えてくれるはず。今、川崎市内で町内会に参加しているのは7割くらい。参加者が減っているのだから、入りたいと言えば、入れてもらえると思う。」

王平委員長「続いて、福祉教育報告会の報告をお願いしたい。今回から部会長ではなくて、部会のメンバーが報告する。」

チャート部会長「部会審議の発表は部会長が行うことは条例で決まっているのでは。」
事務局湯川主任「外国人市民代表者会議運営要綱の第7条で部会長が部会の審議経過及び
結果を議長に報告する、となっている。部会長に報告していただきたい。」

[福祉教育部会]

園田部会長「今日の審議結果を報告する。まず、家庭教育について。皆さん一人一人自分
たちの問題、家庭の問題もあるが、代表者として、どのような家庭教育、または
サポートができるかということ話を話合った。例えば、テレビ局で番組をつくり、
海外の家庭や教育について流してはどうかという提案もあった。例えば
インターネットやラジオを使って、そういう情報を日本の方に流して、外国人がど
ういうふうに教育するか、どのような家庭があるか、をアピールする場をつくった
らどうかという話があった。テレビはインパクトがすごくあるので、一番早いとい
う意見もあった。キーワードでまとめると、ネットワークづくり、情報、
コミュニケーションの場をつくる、という話などが出た。また、教育委員会を呼ん
で、詳しく質問できれば、もう少し意見がまとまるのではないかという話もあった。

あとは、外国人の方、国際結婚されている方のセミナーを開いてはどうかというこ
とと、それも家庭教育に含まれるのではないかという話になった。

次回、教育委員会の方たちを呼びたいと考えているが、事前に聞きたいことを
一人3つまで事務局にメールで送ることになっている。」

王平委員長「意見・質問はあるか。」

柳澤委員「違う部会からも教育委員会へ質問できるのか。」

園田部会長「担当者には部会に来てもらうので、ほかの部会の方は直接答えを聞くことが
できないが、質問を事前に送ってもらえれば、全体会で結果について報告することは
できる。」

王平委員長「福祉教育部会で次回会議に教育委員会から担当者を呼ぶという提案があつた
ので、全体会で決をとりたい。賛成の人は手を挙げて。」(賛成24人→決定。)

王平委員長「質問はメールで事務局に送るということだが、基本的には福祉教育部会の
メンバーから質問を出すという形か。」

園田部会長「他の部会からも1人3つまで質問を受け付ける。結果は部会のメンバーから
聞くか、部会の報告の時に聞いてほしい。」

王平委員長「実行委員会の報告に入る。」

[各種実行委員会報告]

●オープン会議実行委員会；資料4に基づき、役割分担案、広報案、通訳、識字学級訪問
等について説明。

王平委員長「既にオープン会議のPRで識字学級訪問をした委員から感想を聞きたい。」

ケオパサー1委員「中原市民館の識字学級を訪問した。困っていることについて、皆さん
に聞いたが、1つは保育園の支援が足りない。幼稚園の入園する時に、面接がある
が、外国人の保護者はどうすればいいかわからなくて困っている。川崎市で幼稚園に
子どもを入れる保護者に対して何か支援があるかという話だった。もう1つは、
一人親で子育てしている男性で、6年生になる子どもに勉強を教えたいが、働かな
ければいけないので困っている。相談する人が余りいない。市や学校で教育支援が
あれば助かる、という話を聞いた。」

王平委員長「福祉教育部会の審議の中で取り入れてほしい。保育園は前期も結構意見が出ていた。学習支援も各区でやっているの、情報を伝えるとよいという話は社会生活部会でも出ていた。」

園田委員「宮前市民館を訪問した。川崎市にはタイ人がとても多いが、タイ語の資料がないので、あるとよいという話があった。」

王平委員長「今年度難しいかもしれないが、次年度でタイ語ができる人がいれば、ニューズレターなども、事務局のほうで考えてほしい。」

●市民祭り実行委員会；当日の役割分担、テント内企画について説明。ステージ、パレードへの参加、展示品、各国のお茶の提供を依頼。

●多文化フェスタみぞのくち実行委員会；当日の集合時間やスケジュール、雨天の際の開催確認などについて説明。

王平委員長「これで、第3回第1日の会議を閉会する。」